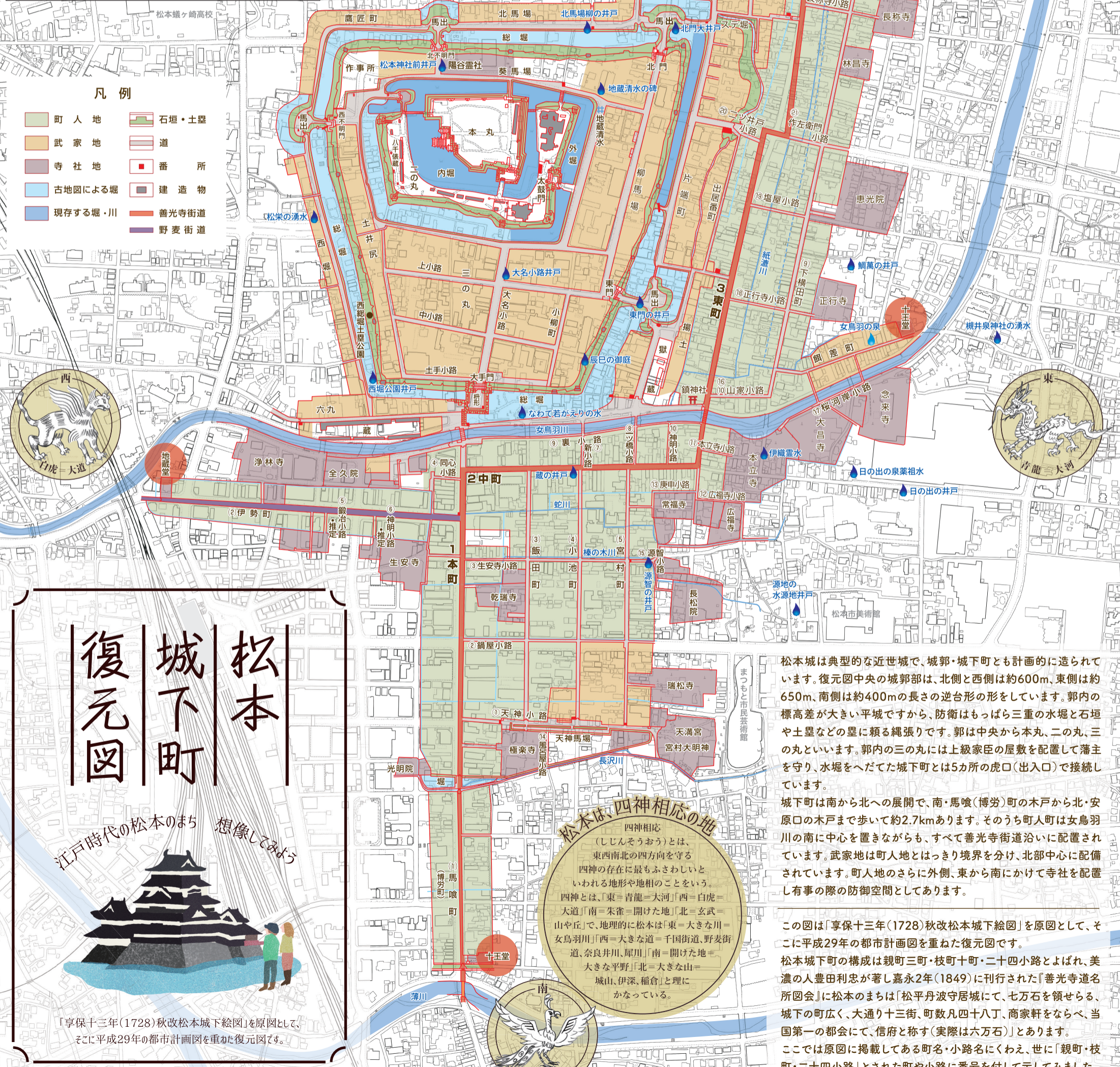


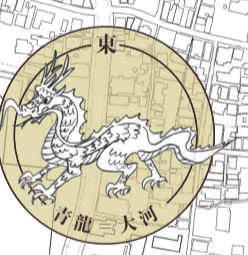
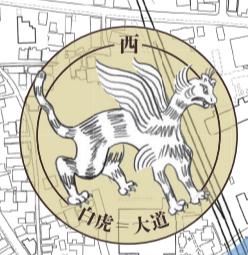
松本城下町の親町三町・枝町十町・二十四小路

区分	親町	枝町	小路	備考	
1	本町		① 天神小路	『信府統記』は天神馬場小路	
			② 鍋屋小路	「元禄図」は飯田町入小路	
			③ 生安寺小路	「元禄図」は玄知通り	
			④ 同心小路	元禄9年開通 町同心小路	
	(1) 馬喰(博勞)町				
	(2) 伊勢町		⑤ 鍛冶小路		
			⑥ 神明小路		
	2	中町		⑦ 新小路	
				⑧ 一ツ橋小路	
				⑨ 裏小路	
			⑩ 神明小路		
			⑪ 本立寺小路		
			⑫ 広福寺小路		
(3) 飯田町					
(4) 小池町					
(5) 宮村町				⑬ 庚申小路	
				⑭ 風呂屋小路	『信府統記』に記載あり
		⑮ 源智小路	『信府統記』は玄知小路		
3	東町		⑯ 山家小路	旧『松本市史』は山邊小路	
			⑰ 桜河岸小路		
			⑱ 正行寺小路		
			⑲ 塩屋小路		
			⑳ ニッ井戸小路		
			㉑ 作左衛門小路		
		(6) 和泉町		㉒ 長称寺小路	
		(7) 安原町		㉓ 観音小路	
		(8) 上横田町		㉔ 常法寺小路	
		(9) 下横田町			
(10) 山家小路					

監修 松本市立博物館 協力 松本城管理事務所 2008.3.31

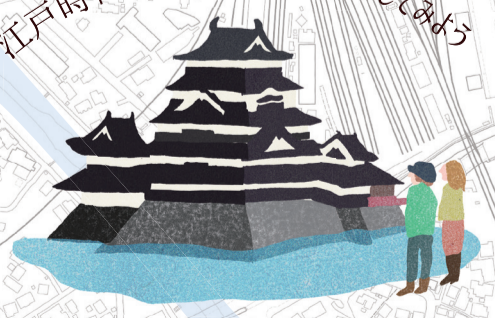


- ### 凡例
- 町人地
 - 武家地
 - 寺社地
 - 古地図による堀
 - 現存する堀・川
 - 石垣・土塁
 - 道
 - 番所
 - 建造物
 - 善光寺街道
 - 野麦街道



松本城下町復元図

江戸時代の松本のまちを想像しよう



「享保十三年(1728)秋改松本城下絵図」を原図として、そこに平成29年の都市計画図を重ねた復元図です。

松本は、四神相応の地

四神相応(しじんそうおう)とは、東西南北の四方方向を守る四神の存在に最もふさわしいといわれる地形や地相のことをいう。四神とは、「東＝青龍＝大河」「西＝白虎＝大道」「南＝朱雀＝開けた地」「北＝玄武＝山や丘」で、地理的に松本は「東＝大きな川＝女鳥羽川」「西＝大きな道＝千国街道、野麦街道、奈良井川、犀川」「南＝開けた地＝大きな平野」「北＝大きな山＝城山、伊深、稲倉」と理にかなっている。

松本城は典型的な近世城で、城郭・城下町とも計画的に造られています。復元図中央の城郭部は、北側と西側は約600m、東側は約650m、南側は約400mの長さの逆台形の形をしています。郭内の標高差が大きい平城ですから、防衛はもっぱら三重の水堀と石垣や土塁などの壁に頼る縄張りです。郭は中央から本丸、二の丸、三の丸といいます。郭内の三の丸には上級家臣の屋敷を配置して藩主を守り、水堀をへだてた城下町とは5カ所の虎口(出入口)で接続しています。

城下町は南から北への展開で、南・馬喰(博勞)町の木戸から北・安原口の木戸まで歩いて約2.7kmあります。そのうち町人町は女鳥羽川の南に中心を置きながらも、すべて善光寺街道沿いに配置されています。武家地は町人地とはっきり境界を分け、北部中心に配備されています。町人地のさらに外側、東から南にかけて寺社を配置し有事の際の防御空間としてあります。

この図は「享保十三年(1728)秋改松本城下絵図」を原図として、そこに平成29年の都市計画図を重ねた復元図です。松本城下町の構成は親町三町・枝町十町・二十四小路とよばれ、美濃の人豊田利忠が著し嘉永2年(1849)に刊行された『善光寺道名所図会』に松本のまちは「松平丹波守居城にて、七万石を領せらる、城下の町広く、大通り十三街、町数凡四十八丁、商家軒をならべ、当国第一の都会にて、信府と称す(実際は六万石)」とあります。ここでは原図に掲載してある町名・小路名にくわえ、世に「親町・枝町・二十四小路」とされた町や小路に番号を付して示してみました。

この地図は、松本市長の承認を得て、松本市作成の松本市基本図1/2,500を使用したものである。(承認番号 平29松建政指第319号)